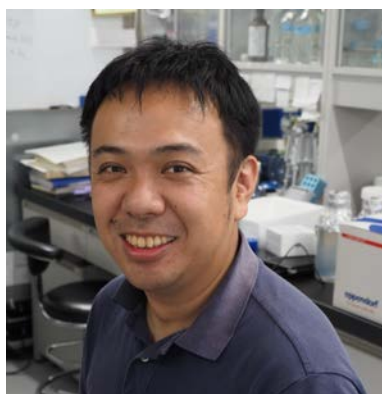


“植物の光獲得戦略 — 葉の細胞形状と葉緑体の細胞内配置 —



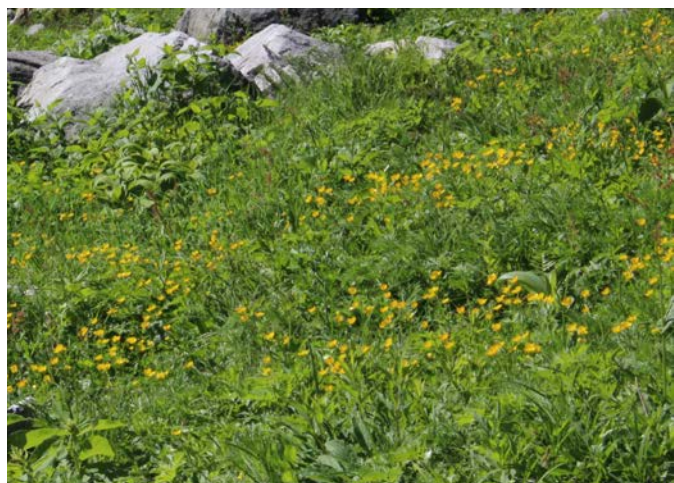
後藤栄治 博士

九州大学 農学研究院 環境農学部門 教授

2025 年 10 月 9 日 (木曜日)

16:00-17:30 農学部 第6講義室

日なた



林床



暗い林床に生育する植物は、微弱な光環境に適応している。我々は、日本各地の林床から約350種の植物を採取し、葉の細胞形状と葉緑体の配置を解析した。その結果、**微弱光環境に適応した植物では、柵状組織細胞が逆円錐形**をとり、葉緑体は細胞表面ではなく側壁に配置されていることが明らかとなった。さらに、光受容量を試算したところ、**逆円錐形細胞の葉緑体は、よく知られている円柱形の細胞のそれと比べて5倍以上の光を受容できる**ことが分かった。これらの特徴は、林床植物が進化の過程で獲得した適応形質であると考えられる。本発表では、このような細胞構造の生態生理学的意義とその分子基盤について紹介する。

Contact: 生物機能センター 永井啓祐 (nagai.k@agr.nagoya-u.ac.jp)